

不等式の証明に役立つ不等式と接線の利用 について

やなぎだ いつお
柳田 五夫

§1. はじめに

不等式の証明に役立つ不等式としては、相加平均・相乗平均を含む不等式

「 $a_i > 0$ ($i=1, 2, \dots, n$) のとき

$$\frac{a_1 + a_2 + \dots + a_n}{n} \geq \sqrt[n]{a_1 a_2 \dots a_n}$$

が成り立つ。」

や、コーシー・シュワルツの不等式

「 $a_1, a_2, \dots, a_n, b_1, b_2, \dots, b_n$ が実数のとき

$$(a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2)(b_1^2 + b_2^2 + \dots + b_n^2) \geq (a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n)^2$$

が成り立つ。」

が有名であるが、ここでは大学入試に出題された2つの不等式を紹介したい。

また、不等式を証明するために、接線の利用についても述べたい。

§2. 有用な不等式 1

□ $a_1, a_2, \dots, a_n, x_1, x_2, \dots, x_n$ が実数で、 $x_1 > 0, x_2 > 0, \dots, x_n > 0$ のとき

$$\frac{a_1^2}{x_1} + \frac{a_2^2}{x_2} + \dots + \frac{a_n^2}{x_n} \geq \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2}{x_1 + x_2 + \dots + x_n}$$

が成り立つ。等号は

$$\frac{a_1}{x_1} = \frac{a_2}{x_2} = \dots = \frac{a_n}{x_n}$$

のときに限る。

この不等式は、次の問題に表れた不等式を一般化したものである。

問題 1 a, b, c を正の定数とするとき、

(1) 正の数 x, y の和が一定数 h に等しいならば

$$\frac{a^2}{x} + \frac{b^2}{y} \geq \frac{(a+b)^2}{h}$$

(2) 正の数 x, y, z の和が一定数 k に等しいとき

$$\frac{a^2}{x} + \frac{b^2}{y} + \frac{c^2}{z}$$

の最小値を求めよ。

〔名古屋大〕

□□の証明 数学的帰納法で証明する。

(i) $n=2$ のとき

$$\frac{a_1^2}{x_1} + \frac{a_2^2}{x_2} - \frac{(a_1 + a_2)^2}{x_1 + x_2} = \frac{(a_1 x_2 - a_2 x_1)^2}{x_1 x_2 (x_1 + x_2)} \geq 0$$

から成り立つことがわかる。等号は $\frac{a_1}{x_1} = \frac{a_2}{x_2}$ のとき成り立つ。

(ii) n のとき成り立つと仮定すると、 $n+1$ のときも

$$\begin{aligned} & \frac{a_1^2}{x_1} + \frac{a_2^2}{x_2} + \dots + \frac{a_n^2}{x_n} + \frac{a_{n+1}^2}{x_{n+1}} \\ & \geq \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2}{x_1 + x_2 + \dots + x_n} + \frac{a_{n+1}^2}{x_{n+1}} \\ & \geq \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n + a_{n+1})^2}{x_1 + x_2 + \dots + x_n + x_{n+1}} \end{aligned}$$

より不等式は成り立つ。等号は

$$\frac{a_1}{x_1} = \frac{a_2}{x_2} = \dots = \frac{a_n}{x_n} \text{ かつ}$$

$$\frac{a_1 + a_2 + \dots + a_n}{x_1 + x_2 + \dots + x_n} = \frac{a_{n+1}}{x_{n+1}} \text{ から}$$

$$\frac{a_1}{x_1} = \frac{a_2}{x_2} = \dots = \frac{a_n}{x_n} = \frac{a_{n+1}}{x_{n+1}} \text{ のとき成り立つ。}$$

(i), (ii) よりすべての $n \geq 2$ について不等式は成り立つ。 ■

□注 1 コーシー・シュワルツの不等式を使って、

□の不等式を証明できる。

$$\begin{aligned} & (x_1 + x_2 + \dots + x_n) \left(\frac{a_1^2}{x_1} + \frac{a_2^2}{x_2} + \dots + \frac{a_n^2}{x_n} \right) \\ & \geq \left(\sqrt{x_1} \cdot \frac{a_1}{\sqrt{x_1}} + \sqrt{x_2} \cdot \frac{a_2}{\sqrt{x_2}} + \dots + \sqrt{x_n} \cdot \frac{a_n}{\sqrt{x_n}} \right)^2 \\ & = (a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2 \end{aligned}$$

□注 2 逆に $b_i \neq 0$ ($i=1, 2, \dots, n$) のとき、コーシー・シュワルツの不等式が証明できる。

$$\begin{aligned}
& a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2 \\
&= \frac{a_1^2 b_1^2}{b_1^2} + \frac{a_2^2 b_2^2}{b_2^2} + \dots + \frac{a_n^2 b_n^2}{b_n^2} \\
&\geq \frac{(a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n)^2}{b_1^2 + b_2^2 + \dots + b_n^2} \text{ から,} \\
& (a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2)(b_1^2 + b_2^2 + \dots + b_n^2) \\
&\geq (a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n)^2
\end{aligned}$$

を得る。 ■

①の不等式の使い方をみていきたい。まず、基本的な不等式として、 a, b, c を実数とすると、

$$\begin{aligned}
a^2 + b^2 &= \frac{a^2}{1} + \frac{b^2}{1} \geq \frac{(a+b)^2}{2} \\
a^2 + b^2 + c^2 &\geq \frac{(a+b+c)^2}{3} \text{ が示せる。}
\end{aligned}$$

問題 2 $x_1 > 0, x_2 > 0, \dots, x_n > 0$ で $x_1 + x_2 + \dots + x_n = 1$ のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \geq n^2$$

[解答] ①の不等式を用いると

$$\begin{aligned}
\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} &= \frac{1^2}{x_1} + \frac{1^2}{x_2} + \dots + \frac{1^2}{x_n} \\
&\geq \frac{(1+1+\dots+1)^2}{x_1 + x_2 + \dots + x_n} \\
&= \frac{n^2}{1} = n^2 \quad \blacksquare
\end{aligned}$$

[注] $(x_1 + x_2 + \dots + x_n) \left(\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \right) \geq n^2$

から $\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \geq n^2$ を示すこともできる。

問題 3 (APMO 1991) $a_1, a_2, \dots, a_n, b_1, b_2, \dots, b_n$ が $a_1 + a_2 + \dots + a_n = b_1 + b_2 + \dots + b_n$ を満たす正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\begin{aligned}
& \frac{a_1^2}{a_1 + b_1} + \frac{a_2^2}{a_2 + b_2} + \dots + \frac{a_n^2}{a_n + b_n} \\
&\geq \frac{1}{2}(a_1 + a_2 + \dots + a_n)
\end{aligned}$$

[解答] ①の不等式を使うと

$$\begin{aligned}
& \frac{a_1^2}{a_1 + b_1} + \frac{a_2^2}{a_2 + b_2} + \dots + \frac{a_n^2}{a_n + b_n} \\
&\geq \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2}{(a_1 + b_1) + (a_2 + b_2) + \dots + (a_n + b_n)} \\
&= \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2}{2(a_1 + a_2 + \dots + a_n)} \\
&= \frac{1}{2}(a_1 + a_2 + \dots + a_n) \quad \blacksquare
\end{aligned}$$

§3. 有用な不等式 2

問題 4 a, b, c, x, y, z はすべて正の数を表すとき、次の不等式を証明せよ。

- (1) $(b+c)(c+a)(a+b) \geq 8abc$
- (2) $xyz \geq (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$

[東京工大]

(2)では、 $a=y+z-x, b=z+x-y, c=x+y-z$ とおくと $b+c=2x, c+a=2y, a+b=2z$ となり、(1)と同じ不等式を証明すればよいことになるが、 $a > 0, b > 0, c > 0$ かどうかわからないので工夫が必要になる。

[解答 1] x, y, z に関して対称式なので、 $x \geq y \geq z$ と仮定する。 $a=y+z-x, b=z+x-y, c=x+y-z$ とおくと $b > 0, c > 0$ はいえる。また、 $b+c=2x, c+a=2y, a+b=2z$ より

$$xyz \geq (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$$

$$\iff \frac{b+c}{2} \cdot \frac{c+a}{2} \cdot \frac{a+b}{2} \geq abc$$

$$\iff (b+c)(c+a)(a+b) \geq 8abc \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

a については $a > 0$ または $a \leq 0$ となるから場合分けをする。

(i) $a > 0$ の場合

(1)から、①は成り立つ。

(ii) $a \leq 0$ の場合

$b+c=2x, c+a=2y, a+b=2z$ より $b+c > 0, c+a > 0, a+b > 0$ であるから ①の左辺 > 0 、右辺 ≤ 0 となる。よって①は成り立つ。 ■

[解答 2] x, y, z に関して対称式なので、 $x \geq y \geq z$ と仮定すると、 $z+x-y > 0, x+y-z > 0$ となるが、 $y+z-x$ の符号がわからないので場合分けをする。

(i) $y+z-x \leq 0$ のときは、(2)の左辺 > 0 、右辺 ≤ 0 より(2)の不等式は成り立つ。

(ii) $y+z-x > 0$ のときは

$$[(y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)]^2 \leq (xyz)^2 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

を証明すればよい。

$$(y+z-x)(z+x-y) = z^2 - (x-y)^2 \leq z^2$$

$$(z+x-y)(x+y-z) = x^2 - (y-z)^2 \leq x^2$$

$$(x+y-z)(y+z-x) = y^2 - (z-x)^2 \leq y^2$$

したがって、②は成り立つ。 ■

[解答 3] x, y, z に関して対称式なので、
 $x \geq y \geq z$ と仮定して、 $x-y=p \geq 0, y-z=q \geq 0$
 とおくと

$$\begin{aligned} &xyz - (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z) \\ &= (z+p+q)(z+q)z - (z-p)(z+p)(z+p+2q) \\ &= (p^2 + pq + q^2)z + p^2(p+2q) \geq 0 \end{aligned}$$

したがって、(2)の不等式は成り立つ。 ■

[解答 4] x, y, z に関して対称式なので、
 $x \geq y \geq z$ と仮定する。

$$\begin{aligned} &xyz - (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z) \\ &= x(x-y)(x-z) + y(y-x)(y-z) + z(z-x)(z-y) \\ &= (x-y)[x(x-z) - y(y-z)] + z(x-z)(y-z) \end{aligned}$$

$x \geq y \geq 0, x-z \geq x-y \geq 0$ から $x(x-z) \geq y(y-z)$
 で、仮定から、左辺のすべての項は非負であるから

$$(x-y)[x(x-z) - y(y-z)] + z(x-z)(y-z) \geq 0$$

したがって、(2)の不等式は成り立つ。 ■

[注 1] (2)の不等式は、 $x \geq 0, y \geq 0, z \geq 0$ のとき
 に成立することが容易にわかる。

また、等号成立条件は $x > 0, y > 0, z > 0$ のとき
 $x=y=z$ であることがわかる。

x, y, z のうちに 0 がある場合、例えば $x=0$ の
 ときは等号成立は $0 = -(y+z)(y-z)^2$ より
 $y=z=0$ または $y=z$ より $x=y=z=0$ または
 $x=0, y=z$ となる。

まとめると、等号成立は $x=y=z (\neq 0)$ または
 $y=z, x=0$ または $z=x, y=0$ または $x=y,$
 $z=0$ のときとなる。

[注 2] $xyz \geq (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$ の
 右辺を展開して整理すると

$$\begin{aligned} &x^3 + y^3 + z^3 + 3xyz \\ &\geq x^2(y+z) + y^2(z+x) + z^2(x+y) \end{aligned}$$

となる。

$(x+y+z)^3 + 9xyz \geq 4(x+y+z)(xy+yz+zx)$
 についても両辺を展開して整理すれば同じ式が出て
 くるので、次のようにまとめることができる。

② $x \geq 0, y \geq 0, z \geq 0$ のとき、次の不等式が
 成り立つ。

a) $xyz \geq (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$

b) $x^3 + y^3 + z^3 + 3xyz$
 $\geq x^2(y+z) + y^2(z+x) + z^2(x+y)$

c) $(x+y+z)^3 + 9xyz$
 $\geq 4(x+y+z)(xy+yz+zx)$

d) $x(x-y)(x-z) + y(y-x)(y-z)$
 $+ z(z-x)(z-y) \geq 0$

等号は $x=y=z (\neq 0)$ または $y=z, x=0$
 または $z=x, y=0$ または $x=y, z=0$
 のときに成り立つ。

②の d) は次の Schur の不等式の $r=1$ の場合
 になっている。

定理 (Schur) $x \geq 0, y \geq 0, z \geq 0$ で $r > 0$ の
 とき、次の不等式が成り立つ。

$$\begin{aligned} &x^r(x-y)(x-z) + y^r(y-x)(y-z) \\ &+ z^r(z-x)(z-y) \geq 0 \end{aligned}$$

等号は $x=y=z (\neq 0)$ または $y=z, x=0$
 または $z=x, y=0$ または $x=y, z=0$
 のときに成り立つ。

§4. 接線を利用して不等式を証明する

問題 5 (USAMO Summer Program 2002)

$a > 0, b > 0, c > 0$ のとき

$$\left(\frac{2a}{b+c}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2b}{c+a}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2c}{a+b}\right)^{\frac{2}{3}} \geq 3$$

が成り立つことを証明せよ。

[解答] 不等式の左辺の式の分母と分子の次数は同
 じであるから、

$$p = \frac{a}{a+b+c}, q = \frac{b}{a+b+c}, r = \frac{c}{a+b+c} \text{ とおく}$$

と $p > 0, q > 0, r > 0, p+q+r=1$ となる。

$$\left(\frac{2a}{b+c}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2b}{c+a}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2c}{a+b}\right)^{\frac{2}{3}} \geq 3$$

$$\iff \left(\frac{2p}{q+r}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2q}{r+p}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2r}{p+q}\right)^{\frac{2}{3}} \geq 3$$

$$\iff \left(\frac{2p}{1-p}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2q}{1-q}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2r}{1-r}\right)^{\frac{2}{3}} \geq 3$$

$$f(x) = \left(\frac{2x}{1-x}\right)^{\frac{2}{3}} \quad (0 < x < 1) \text{ とおくと}$$

$$f'(x) = \frac{4}{3} \left(\frac{2x}{1-x}\right)^{-\frac{1}{3}} \cdot \frac{1}{(1-x)^2}$$

$p=q=r=\frac{1}{3}$ のとき、不等式の等号が成り立つか

ら、 $y=f(x)$ 上の点 $\left(\frac{1}{3}, 1\right)$ における接線の利用を

考える。 $f'\left(\frac{1}{3}\right)=3, f\left(\frac{1}{3}\right)=1$ であるから接線の方

程式は、 $y=3\left(x-\frac{1}{3}\right)+1$ すなわち $y=3x$ となる。

次に、 $y=f(x)$ と接線 $y=3x$ の上下関係を調べる。

$$\begin{aligned} [f(x)]^3-(3x)^3 &= \left(\frac{2x}{1-x}\right)^2 - (3x)^3 \\ &= \frac{x^2(4-27x+54x^2-27x^3)}{(1-x)^2} \\ &= \frac{x^2(3x-1)^2(4-3x)}{(1-x)^2} \geq 0 \end{aligned}$$

したがって、 $f(x) \geq 3x$ が成り立つから

$$f(p)+f(q)+f(r) \geq 3(p+q+r)=3 \quad \blacksquare$$

[注] $f''(x)=\frac{4(6x-1)}{9x(1-x)^3}\left(\frac{2x}{1-x}\right)^{-\frac{1}{3}}$ より、凸関数

ではないので、後述の Jensen の定理は使えない。

次の問題は、誘導がないと解きにくいかもしれない。

問題 6 (1) $p>0, q>0, p+q=1$ のとき、関数 $f(x)=x^2$ について次の不等式が成り立つことを示せ。

$$f(px_1+qx_2) \leq pf(x_1)+qf(x_2)$$

(2) $a>0, b>0, a+b=1$ のとき、(1)を用いて次の不等式が成り立つことを示せ。

$$\left(a+\frac{1}{a}\right)^2 + \left(b+\frac{1}{b}\right)^2 \geq \frac{25}{2}$$

[早稲田大]

ここでは、一般化して次の問題を考える。

問題 7 $x_1>0, x_2>0, \dots, x_n>0,$
 $x_1+x_2+\dots+x_n=1$ のとき

$$\left(x_1+\frac{1}{x_1}\right)^2 + \left(x_2+\frac{1}{x_2}\right)^2 + \dots + \left(x_n+\frac{1}{x_n}\right)^2$$

の最小値を求めよ。

[解答 1] $g(x)=\left(x+\frac{1}{x}\right)^2$ ($0<x<1$) とおくと

$$g'(x)=2\left(x+\frac{1}{x}\right)\left(1-\frac{1}{x^2}\right)$$

$y=g(x)$ 上の点 $\left(\frac{1}{n}, \frac{(n^2+1)^2}{n^2}\right)$ における接線の

方程式は

$$y=\frac{2(1-n^4)}{n}x+\frac{3n^4+2n^2-1}{n^2}$$

となるから、 $y=g(x)$ との上下関係を調べる。

$$g(x)-\frac{2(n-n^5)x+3n^4+2n^2-1}{n^2}$$

$$\begin{aligned} &= \frac{n^2x^4+2(n^5-n)x^3-(3n^4-1)x^2+n^2}{n^2x^2} \\ &= \frac{(nx-1)^2(x^2+2n^3x+n^2)}{n^2x^2} \geq 0 \end{aligned}$$

したがって

$$g(x) \geq \frac{2(n-n^5)x+3n^4+2n^2-1}{n^2}$$

が成り立つから

$$\begin{aligned} &g(x_1)+g(x_2)+\dots+g(x_n) \\ &\geq \frac{2(n-n^5)(x_1+x_2+\dots+x_n)+n(3n^4+2n^2-1)}{n^2} \\ &= \frac{2(n-n^5)+n(3n^4+2n^2-1)}{n^2} \\ &= \frac{(n^2+1)^2}{n} \end{aligned}$$

よって、 $x_1=x_2=\dots=x_n=\frac{1}{n}$ のとき、

最小値 $\frac{(n^2+1)^2}{n}$ をとる。

[解答 2] ①の不等式から

$$\begin{aligned} &\left(x_1+\frac{1}{x_1}\right)^2 + \left(x_2+\frac{1}{x_2}\right)^2 + \dots + \left(x_n+\frac{1}{x_n}\right)^2 \\ &= \frac{\left(x_1+\frac{1}{x_1}\right)^2}{1} + \frac{\left(x_2+\frac{1}{x_2}\right)^2}{1} + \dots + \frac{\left(x_n+\frac{1}{x_n}\right)^2}{1} \\ &\geq \frac{\left(x_1+\frac{1}{x_1}+x_2+\frac{1}{x_2}+\dots+x_n+\frac{1}{x_n}\right)^2}{1+1+\dots+1} \\ &= \frac{\left(1+\frac{1}{x_1}+\frac{1}{x_2}+\dots+\frac{1}{x_n}\right)^2}{n} \\ &\geq \frac{(1+n^2)^2}{n} \quad (\because \text{問題 2}) \end{aligned}$$

等号は、 $x_1=x_2=\dots=x_n=\frac{1}{n}$ のときである。

よって、 $x_1=x_2=\dots=x_n=\frac{1}{n}$ のとき、

最小値 $\frac{(n^2+1)^2}{n}$ をとる。

[注] [解答 1] で用いた

$$g(x)=\left(x+\frac{1}{x}\right)^2 \quad (0<x<1)$$

について、 $g''(x)=2\left(1+\frac{3}{x^4}\right)>0$ より、 $g(x)$ は下に凸である。したがって、この問題は Jensen の不等式

定理 (Jensen) 区間 (a, b) において

$f''(x)>0$ のとき、 $a<x_i<b$ ($i=1, 2, \dots, n$)

ならば、 $w_i > 0$ ($i=1, 2, \dots, n$), $\sum_{i=1}^n w_i = 1$ に対して

$$f\left(\sum_{i=1}^n w_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^n w_i f(x_i)$$

が成り立つ。等号は $x_1 = x_2 = \dots = x_n$ のときに限る。

を用いると

$$\begin{aligned} & \frac{g(x_1) + g(x_2) + \dots + g(x_n)}{n} \\ & \geq g\left(\frac{x_1 + x_2 + \dots + x_n}{n}\right) = g\left(\frac{1}{n}\right) \end{aligned}$$

から、 $g(x_1) + g(x_2) + \dots + g(x_n) \geq \frac{(n^2+1)^2}{n}$ が成り立ち、簡単に解くことができる。

§5. おわりに

①の不等式は、コーシー・シュワルツの不等式と似た不等式なので、問題によりコーシー・シュワルツの不等式と使い分けるとよい。

また、接線を利用して不等式を証明する方法も、高校生にぜひ紹介したい解法である。

最後に、§3で扱わなかった②の不等式が使える問題を紹介したい。

問題8 正の数 a, b, c について、 $a^2(b+c-a) + b^2(c+a-b) + c^2(a+b-c)$ と $3abc$ の大きさを比較せよ。〔類 東邦大・薬〕

[解答] $P = a^2(b+c-a) + b^2(c+a-b) + c^2(a+b-c)$ と $Q = 3abc$ の大きさを比較すればよい。

$$\begin{aligned} P - Q &= a^2(b+c) + b^2(c+a) + c^2(a+b) \\ &\quad - (a^3 + b^3 + c^3 + 3abc) \end{aligned}$$

と変形できるから、②b)より $P - Q \leq 0$ となる。等号成立は $a = b = c$ のときに限る。 ■

問題9 (Mihai, Piticari, Dan Popescu)

正の数 a, b, c が $a + b + c = 1$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$5(a^2 + b^2 + c^2) \leq 6(a^3 + b^3 + c^3) + 1$$

[解答] 不等式を同次化する。

$$\begin{aligned} & 5(a^2 + b^2 + c^2) \leq 6(a^3 + b^3 + c^3) + 1 \\ \Leftrightarrow & 5(a^2 + b^2 + c^2)(a + b + c) \\ & \leq 6(a^3 + b^3 + c^3) + (a + b + c)^3 \\ \Leftrightarrow & a^2(b+c) + b^2(c+a) + c^2(a+b) \\ & \leq a^3 + b^3 + c^3 + 3abc \end{aligned}$$

最後の不等式は、②b)より成り立つ。 ■

《参考文献》

- [1] 柳田五夫, 接線を利用した台形の面積で、ある不等式を証明する, 数研通信 No.60
- [2] H.Lee, *Topics in Inequalities-Theorems and Techniques*

(元 栃木県立佐野高等学校)